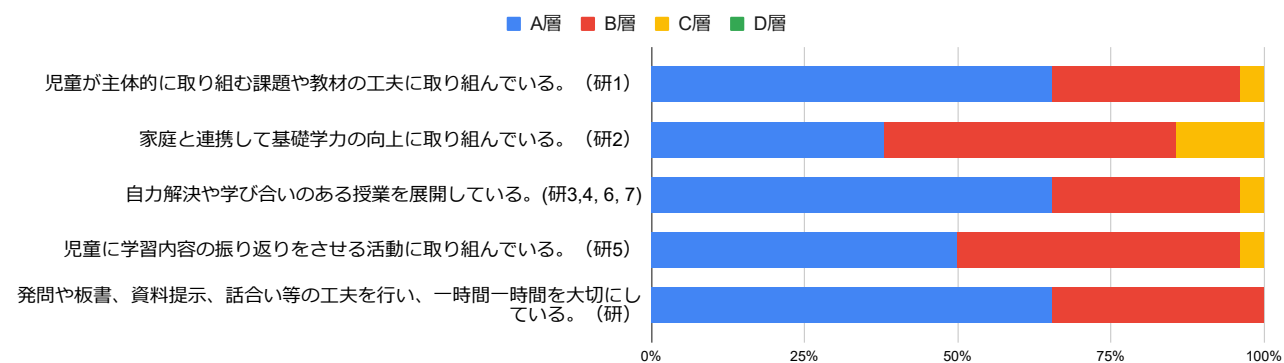


## 令和6年度 第2回学校評価アンケート(教職員アンケート)集計結果と分析

### 教職員アンケート 1 校内研究について (第2回 11月)

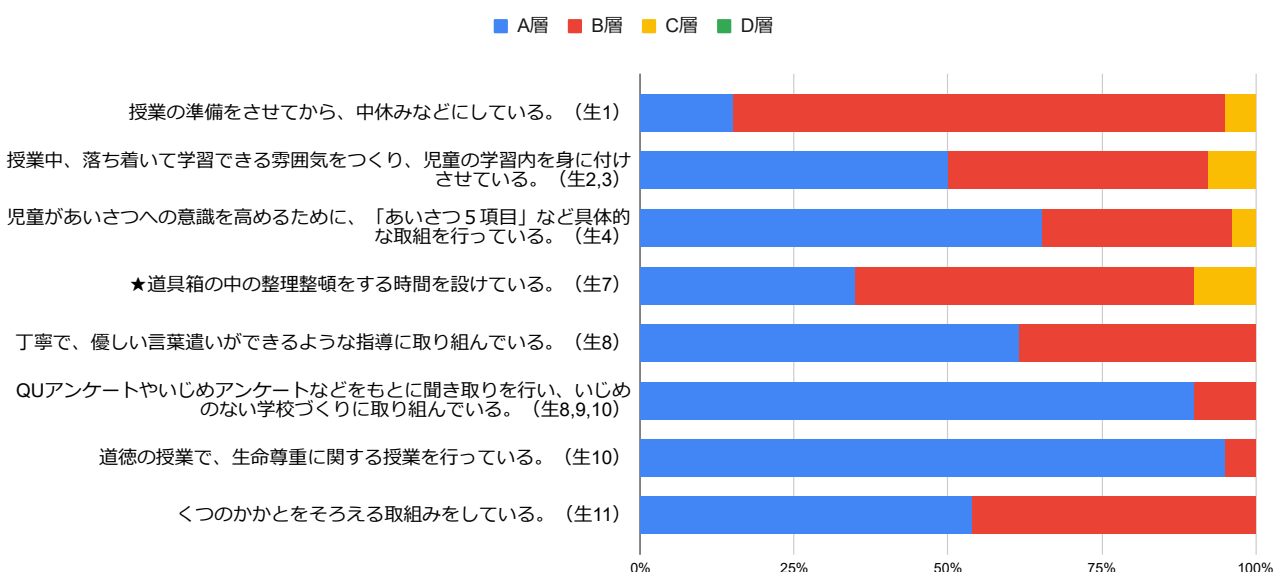


「課題や教材の工夫(研究1)」「自力解決や学び合いのある授業(研究3,4,6,7)」に関してはA層の解答率が向上しています。問いにかかわらせる工夫を中心に、校内研究で授業改善を続けてきた成果が表れています。

一方で、基礎学力の向上への取組(研究2)に関してA層の回答率の低下(26%マイナス)が顕著なものとなりました。学年で家庭学習の内容を見直し、時間(量)と内容(質)双方を確保・改善していくことが課題です。

計算や漢字の書き取りなどの繰り返し練習が必要な学習活動についてはICT機器も活用しつつ、朝学習などの時間を活用して確実に学習内容が定着するようにしていきます。また、評価テストの見直しに十分な時間を取ることで、学びを自己調整する力を全学年で伸ばしていきます。

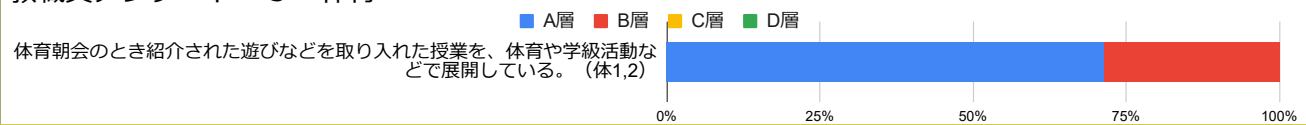
### 教職員アンケート 2 生活指導について



「工具箱の整理整頓」(生7)についてAの割合が減っています。行事などが重なり、慌ただしかったことが原因と考えられます。日頃から整理整頓の時間を習慣化する、整頓係を作る等、持続可能な指導をし、児童が自ら取り組めるように組織化する必要があります。

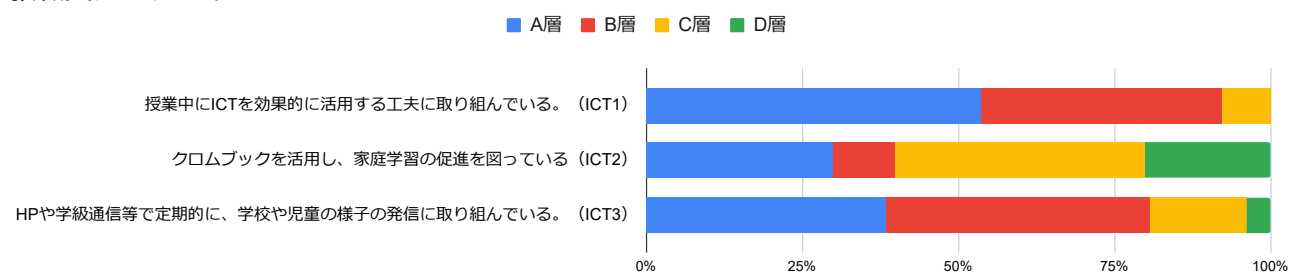
「あいさつの取組」(生4)「生命尊重」(生10)については、どちらも割合が高くなっています。児童アンケートでも高い割合になっています。教職員が継続して全校児童に行っている指導について、児童の成長が見られるアンケートになっています。あいさつについては、「あいさつ5項目の確認」「日直が校門に立つ」「毎月のあいさつ運動」等、生命尊重については「ハートフルウィークの活用」「道徳の時間の充実」「QUアンケート分析」「いじめアンケート分析」等の指導を継続し、児童のC・D層の児童が減るようにしていきます。

### 教職員アンケート 3 体育



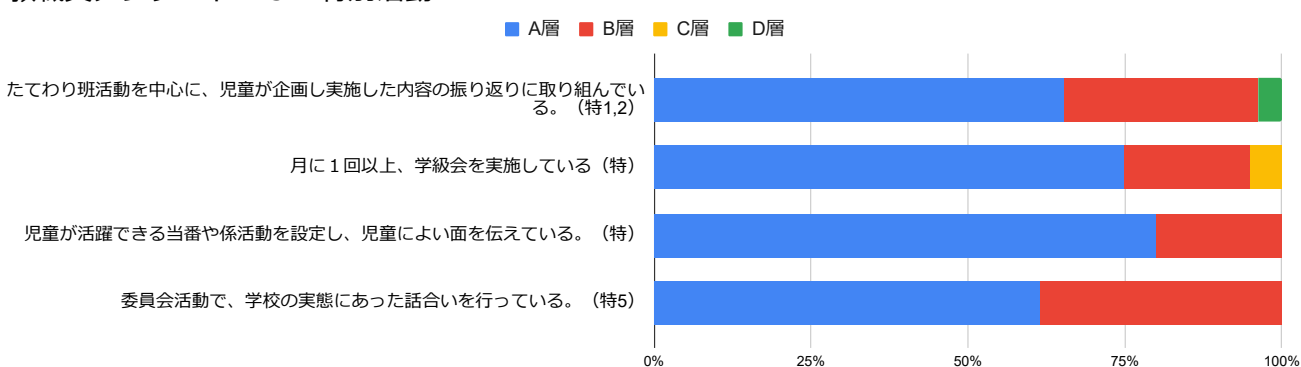
体育朝会で「にんじゃ手裏剣」と「どんじゃんけん」を紹介しました。紹介された遊びを休み時間や体育の時間に全学級で取組ました。「どんじゃんけん」のように慣れ親しんだ遊びでも、工夫の仕方を紹介することで高学年でも楽しく取り組むことができました。

### 教職員アンケート 4 ICT



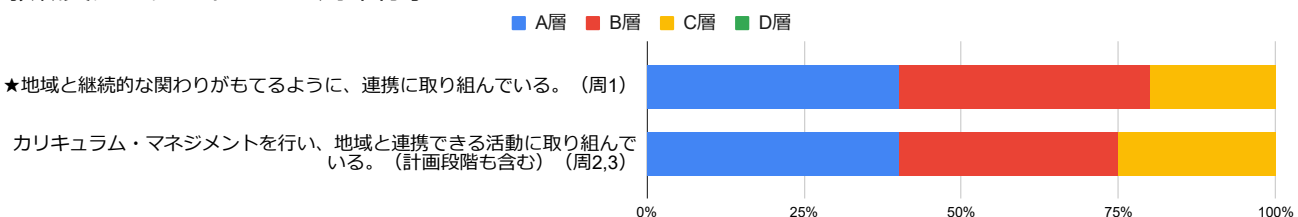
授業中のICTの効果的な活用を、9割の先生方が取り組んでいます。「家庭学習の促進を図っている」というアンケートに対して否定的な回答が多いですが、2学期からタブレット端末の持ち帰りを計画的に行っていきます。長期的な見通しをもち、引き続きタブレット端末の持ち帰りを推進し、家庭学習の促進を図っていきます。HPにおける学校や児童の様子発信は、どの学年も計画的に実施していることから肯定的な回答が多いことが分かりました。

### 教職員アンケート 5 特別活動



概ねAB層で占めています。たてわり班活動の振り返りはグループによって偏りができる可能性があるため、教員側から声をかけ充実するように取り組んでいきます。

### 教職員アンケート 6 周年行事



地域との連携、カリキュラムマネジメントの両方で、約8割の先生方が取り組んでいると回答しています。その理由としては、2学期も同様に総合的な学習の時間や生活科に限らず、社会科や道徳科など、各教科の学習の中でも、地域を生かした学習を行っていることが挙げられます。3学期は周年行事で地域との関わりがあるため、同様の成果が見込まれることが予想されます。